

モーリン・アンド・マイク・マンフィールド財団ニュースレター

2020年10月15日

パネルディスカッション「朝鮮半島におけるステークホルダーのミスアラインメントの削減」を実施
9月29日、[キャピトルヒル・アジア政策対話プログラム](#)の一環として、マンフィールド財団発行の報告書「[朝鮮半島におけるステークホルダーのミスアラインメントの削減 \(Reducing Major Stakeholder Misalignment on the Korean Peninsula\)](#)」(英語)についてのパネルディスカッションを実施した。本報告書は、朝鮮半島のステークホルダーである米国、日本、韓国、中国、ロシアといった国々が優先事項のミスアラインメントにいかに対処していくことができるかについて考察している。それぞれの国が朝鮮半島での目標をどのように優先順位づけているか、地域のステークホルダーが平和と非核化の礎を築くためにいかにてこ入れしていくかについて、当財団のフランク・ジヤヌーシ理事長、全米北朝鮮委員会のプログラム・オフィサーのエスター・イム氏、ハドソン研究所の日本チェア・フェローの村野将氏の3人が報告書の分析結果や提案に基づき議論した。

ブックトーク・イベント、「The Iconoclast: Shinzo Abe and the New Japan」(トバイアス・ハリス著)を実施

米国時間9月29日(日本時間30日)、「The Iconoclast: Shinzo Abe and the New Japan (アイコンクラスト: 安倍晋三とニュージャパン)」の著者であるトバイアス・ハリス(Tobias Harris)氏を招き、オンライン・ブックトーク・イベントを開催した。本イベントは、安倍前首相の辞任後に続く菅政権と今後の動向を見据えつつ、日本における安倍氏の政治家としてのキャリアとレガシーについて再考するタイムリーなイベントとなった。なお、ハリス氏は、マンフィールド財団が行う[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)の第3期生でもある。

The Iconoclast: Shinzo Abe and the New Japan は現在 [Kindle](#) で購入可能

CFM オンライン会合開催: ラスト・デミング元駐チュニジア米国大使を迎えて

間近に迫った米国大統領を控え、日本事情に精通する[ラスト・デミング大使](#)を招き、[コーポレート・フレンズ・オブ・マンフィールド \(CFM\)](#)のオンライン会合を米国時間10月5日(日本時間6日)に開催した。デミング大使は米国国務省に38年間勤務し、日米関係の重要な擁護者として知られている。退官後、2010年に国務次官補上級顧問(東アジア・太平洋担当)として国務省へ再び召喚され、2011年3月から9月にかけて国務省日本部長として東日本大震災における米国政府の対応に尽力した。またマンフィールド財団理事及び同財団国際諮問委員会の委員でもある。

第 25 期マンスフィールドフェローのための訪日前オンライン・セミナー

マンスフィールド財団東京事務所は、日本時間 10 月 9 日、[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#) 第 25 期研修員に訪日前オンライン・セミナーを行った。マンスフィールドフェローは、例年であれば前年 12 月に選抜された後、米国内で日本語事前研修を受け、7 月に来日、その後一年間日本の省庁等で研修を受けるが、新型コロナウイルス感染症による渡航制限などの影響のため、現在のところ派遣は来年夏以降の予定となった。当財団では、フェローを支援するため、今より訪日前セミナーを実施。初回にあたる今回は、当財団の副理事長を 16 年間務め、その後日米友好基金 (JUSFC) の専務理事を務めるペイジ・コッティンガム・ストリーター氏を講師に招き、当プログラムの設立経緯や設立当初のエピソードなどを交え、日米関係の基盤となる両国の行政間での人的交流の重要性について語っていただいた。なお、コッティンガム・ストリーター氏が当プログラムを回顧したエッセイは、「[ユニークな経験・視点マンスフィールドフェローと彼らが内側から見た日米関係](#)」(p.15-p.18)に収録されている。

<ご案内>

第 26 期マンスフィールドフェロー募集開始

マンスフィールド・フェローシップ・プログラム第 26 期研修員の募集が先月 9 月より開始されました。本プログラムは[米国連邦政府行政官が対象](#)のプログラムです。詳しくは[こちら\(英語\)](#)をご参照ください

マンスフィールド・ルース・アジア・スカラー・ネットワーク・プログラム第 2 期スカラー募集開始

マンスフィールド財団が実施するマンスフィールド・ルース・アジア・スカラー・ネットワーク・プログラムの第 2 期スカラーの募集が今月初めより開始されました。本プログラムは、[博士号以上もしくは同等の資格を持つ米国市民または永住者向け対象](#)のプログラムです。詳しくは[こちら\(英語\)](#)をご参照ください。

第 23 期マンスフィールドフェローのローガン・バーロウ大尉がアメリカ空軍大学のシンポジウムに登壇

米国時間 10 月 15 日(日本時間 16 日)にアメリカ空軍大学 (Air University) の空軍語学・文化センターが主催する[第 5 回「語学・地域の専門知識・文化シンポジウム」](#)(英語)に、マンスフィールド・フェローシップ・プログラム第 23 期研修員(2018-2019 年)のローガン・バーロウ大尉 (Capt.

Logan Barlow)が登壇します。バーロウ大尉がフェロー研修中に日米関係における人的交流の重要性に焦点を当て執筆した論文を基に発表します。ローガン大尉の登壇詳細は以下の通りです。

登壇日時: 日本時間 10 月 16 日午前 7 時—8 時半 (米国中部標準時 10 月 15 日午後 5 時—6 時半)

発表題目: International Security and Reliance on Sustainable Partnerships

ご関心あるかたはご登録の上、ご参加ください。なお、弊財団のイベントではありませんので、詳細・お申込みについては[アメリカ空軍大学のウェブサイト](#)をご参照ください。

第 25 期マンスフィールドフェロー紹介 (2) —2021 年夏以降研修開始予定

English follows Japanese

● ジャレット・レイン・孝治・マエダ (Jared Lane Koji Maeda)

米国議会 議会予算局 保健医療・退職・長期分析課主席アナリスト(保健医療担当)



私は議会予算局の職務において、医療保険の拡充や単一支払者制度、医療費する様々なプロジェクトに携わっています。マンスフィールド・フェローシップ・プログラムに参加を希望した動機は日本の国民保険制度や、制度が法定保険を通してどのように皆保険として確立され、医療費の増額を管理してきたのかということについて直接学びたかったからです。米国は、一人当たりの医療費を他のどの国よりも多く費やしていますが、その成果は他の同等レベルの国より悪く、国民の大勢が今なお無保険状態です。それと比較して、日本は皆保険を 50 年前に達成し、一人当たりにかかる医療費が最も少なく、かつ最も平均余命が長い国の一つです。米国の議員たちが、保険制度を拡充し、医療費を削減するために様々なアプローチを検討している中、マンスフィールド・フェローシップ・プログラムを通して、医療政策についての両国の意見交換がより促進されることでしょう。

私はまた日本が自国の医療制度において直面している課題、例えば医療サービスの過度の利用、医薬品の値上がり、また米国のベビー・ブーム世代も間もなく抱えるであろう急激な高齢化対策などの課題に、国がどのように対応しているのか学びたいと思っています。

私は日系 4 世としてハワイのマウイ島で生まれ育ったので、マンスフィールド・フェローシップ・プログラムを通して「アロハ」大使になり、強固な日米関係が築かれることを願っています。日本に住

み、働くという唯一無二の機会を与えてくれたマンズフィールド・フェローシップ・プログラムに参加するのを楽しみにしています。

Dr. Jared Lane K. Maeda

Principal Analyst, Health, Retirement, and Long-Term Analysis Division, Congressional Budget Office, U.S. Congress

In my position at the Congressional Budget Office, I have worked on various projects related to expansions of health insurance coverage, single-payer systems, and health care prices. My motivation for participating in the Mike Mansfield Fellowship Program is to learn firsthand about Japan's national health care system and how it has been able to achieve universal coverage and control rising health care costs through its statutory insurance. The United States spends more per capita on health care than any other country, yet its health outcomes are worse than those of peer countries, and a significant portion of the population remains uninsured. By comparison, Japan achieved universal coverage more than 50 years ago and it has one of the lowest health care expenditures per capita and longest life expectancies. As Members of Congress consider different approaches to expand coverage and reduce health care costs, the Mansfield Fellowship will help to facilitate the exchange of policy ideas.

I am also interested in learning more about how Japan is responding to the challenges it is facing within its own health care system, such as the overutilization of services, rising drug prices, and caring for its rapidly aging population—an issue that the United States will soon confront with the “baby boomers.”

As a *yonsei*, born and raised in Maui, Hawaii, I hope to be an ambassador of *aloha* and build stronger Japan-U.S. relations through the fellowship program. I look forward to participating in the Mansfield Fellowship, which will provide me with an unparalleled opportunity to live in and work in Japan.

● **サラ・トレッティン (Sara Trettin)**

米国教育省教育・技術局 教育プログラム専門官



私は米国教育省教育・技術局の上級政策アドバイザーです。2015年に国務省教育文化局への出向も含めて過去6年間、教育省に勤務してきました。それ以前は、教師、大学の図書館司書、米国議会図書館のティーチャー・イン・レジデンスとして勤務しました。

教育・技術局では、米国におけるK-12(幼稚園から高校)レベルの教育技術分野を担当し、教師や生徒を支援するためのテクノロジーの効果的利用方法を探し、情報共有しています。またブロードバンド・インターネット接続に関する教育省の業務を担当し、連邦政府機関間の組織であるアメリカン・ブロードバンド・イニシアティブについて教育省を代表しています。そして米国連邦政府、州政府の教育機関、学区、非営利団体や学術機関などからの広範囲なリーダーたちと定期的に連携しています。

新型コロナウイルスの流行の拡大と突然の遠隔学習への転換によって、米国内の生徒たちが高速のインターネットアクセスを経済的に可能な中で確保できるようにすることへの重要性が高まりました。このことは、特にブロードバンドのインフラ整備が整っていない過疎地や、高額なインターネットアクセス費用が障害となってしまう低所得者層が多い地域で大きな課題となっています。同様に、学習支援のテクノロジーを効果的に使うための訓練を受けた教師の確保も重要です。ここ数か月の間に、教育・技術局の私のチームは、オンライン学習への移行を支援するため、生徒やその家族、教師、学校の指導的立場にある人たちに対してベスト・プラクティスを共有し、政策を柔軟に適応する方法について模索し、新しいプログラムの開発や緊急資金を州政府や学校に配分するなど注力してきました。

マンフィールド・フェローシップ・プログラム研修中、日本政府の教育におけるテクノロジー利用への推進努力について、「学校教育の情報化の推進に関する法律」(2019年)といった最近の政策から学びたいと思っています。特に日本が教育テクノロジー政策の開発や実施を通達するために、エビデンスをどのように用いるのか、日本の教育関係者が新しいテクノロジーの利用に対してどのように準備しているのか、これらの改革が過疎地ではどのように実施されているのかについて関心があります。

最近、私は海外勤務職員として在京米国大使館に配属になった夫に帯同して日本に越して来ました。今は、来年の夏にマンフィールド・フェローシップ・プログラムが開始されるまで、教育省の仕事を日本からリモートで続ける予定です。早期に来日できた機会を有効に使い、日本語学習と日本における主要な教育問題の知識の取得に引き続き力を入れていきます。また、この時間を使って、東京や郊外の美しいハイキングコースなどを散策したりしています。

Ms. Sara Trettin

Education Program Specialist, Office of Educational Technology, U.S. Department of Education

I am a senior policy advisor in the Office of Educational Technology at the U.S. Department of Education. I have worked at the Department for the past six years, including an extended rotation in 2015 with the U.S. State Department Bureau of Educational and Cultural Affairs. Prior to joining the Department, I worked as a teacher, a college librarian, and as the national Teacher in Residence at the U.S. Library of Congress.

Within the Office of Educational Technology, I lead coverage of U.S. K-12 educational technology issues, working to identify and share approaches for the effective implementation of technology to support teaching and learning. I lead the Department's work on broadband Internet access and represents the Department on the federal interagency American Broadband Initiative. I regularly work in close collaboration with an extensive network of leaders from across the U.S. federal government, State Education Agencies, school districts, and non-profit and academic organizations.

The COVID-19 pandemic and the sudden shift to remote learning has magnified the importance of access to affordable, high-speed Internet access for students at home. This can be particularly challenging in rural communities that may have limited broadband infrastructure and low-income communities where the high cost of Internet access is a barrier for students and their families. Equally important is ensuring that teachers have training to use the technology effectively to support learning. Over the past several months, I and my team in the Office of Educational Technology have focused on supporting students and families, teachers, and school leaders by sharing best practices, identifying policy flexibilities, and contributing to the development of new programs and the distribution of emergency funding to States and schools to support the transition to online learning.

During the Mansfield Fellowship, I plan to study Japan's efforts to increase the use of technology in education through recent policies like the Law to Promote the Computerization of Education (2019). I am also interested in learning what impact the coronavirus pandemic, school closures, and shift to online learning has had or will have on the use of technology in Japanese schools. Specifically, I am interested in studying how Japan uses evidence to inform educational technology policy development and implementation, how Japanese educators are being prepared to use new technologies, and how these reforms are being implemented in rural schools.

I recently moved to Japan with my husband who is a Foreign Service Officer assigned to the U.S. Embassy in Tokyo. I will continue teleworking for the U.S. Department of Education until the start of the Mansfield Fellowship in 2021. I am taking advantage of my early arrival to continue building my Japanese language skills and knowledge of the key education issues in Japan. I am also using this time to explore Tokyo and the beautiful hiking trails outside of the city.

●レイニア・トロイ・ビヤヌエバ(Reinier Troy Villanueva)

米国空軍少佐、C-17A パイロット



来夏のマンスフィールド・フェローシップ・プログラム開始に先立ち、今年7月転勤のため米国から日本に引っ越してきました。今は東京に住み、日本語を勉強しながら、10月2日に誕生したばかりの息子のテオの世話もしています。妻も私もこうした時間と経験を心から楽しんでいます。

コロナウイルス感染拡大は、日本への転勤にあたって私たち夫婦に試練を与えましたが、幸い予定通りに来日することができ、またマンスフィールド・フェローシップ・プログラムの延期に伴い、日本語の勉強や日本文化に馴染む時間が取れることになったのはよかったと思っています。

マンスフィールド・フェローシップ・プログラム研修中は、日本の生活様式や研修の長期的目的に向かってできるだけ学び、研修後は出身機関の米国空軍に戻り、日米協力強化のために貢献したいと願っています。

Major Reinier Troy Villanueva

C-17 Pilot, U.S. Air Force

Prior to the start of the Mansfield Fellowship Program, I was transferred from the U.S. to Japan in July. I currently live in Tokyo, studying Japanese, and taking care of my newborn son, Theo, born on 2 October! My wife and I have genuinely enjoyed our time and experiences so far.

COVID-19 has made our move out here challenging, but thankfully we were allowed to come out as scheduled and use the extra time before the Fellowship year starts to focus on Japanese language and culture immersion.

During the Fellowship, I want to learn as much as I can about the Japanese way of life and long-term goals to bring back to my home agency and do my part to strengthen the American-Japanese bilateral relationship.

[モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 日本語ホームページ](#)



THE MAUREEN AND
MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

 [Facebook](#)

 [Twitter](#)

 [Email](#)

 [Support](#)